



2013 年 6 月

株式会社三井住友銀行 企業調査部

糸井 寛貴

■ スマートフォンへの依存が高まる電子部品業界の今後の方向性

電子部品需要は全体的に低調な推移を余儀なくされており、このため、日系の電子部品メーカーでは比較的好調に推移するスマートフォン関連部品への依存度が高まってきています。こうしたなか、大手メーカーを中心にスマートフォンメーカー向けのさらなる販路の開拓や、スマートフォン関連部品に代わる新たな成長ドライバーの確立を目指した事業分野拡大の動きが増えつつあり、今後の動向が注目されています。

り一台当たりの搭載部品数が増加していることもあって比較的好調に推移しており、とくに超小型コンデンサや高周波送受信モジュール、高精細液晶パネルといった日系メーカーが得意とする高機能・高品質な電子部品に対する需要はこれまで堅調に推移してきました。こうした動きにつれて、日系電子部品メーカーの売上高に占めるスマートフォン関連部品比率は上昇してきています。

スマートフォン関連部品の今後の見通し

日系電子部品メーカーを取り巻く環境

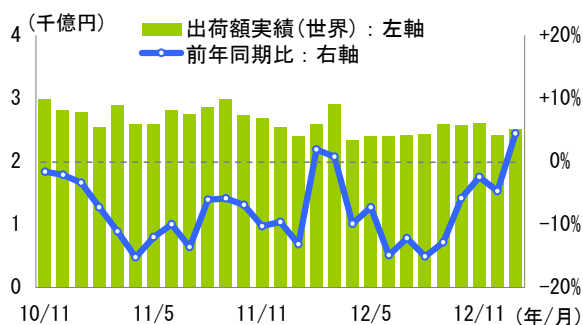
足元の日系電子部品メーカーを取り巻く業界環境についてみれば、①国内薄型テレビ需要の大幅な減少や、②タブレット端末などの普及による電子部品搭載数の多いノートパソコンの販売落ち込みに加えて、③欧州の景気低迷や新興国市場の成長鈍化もあり、電子部品需要は減少傾向で推移しています。

一方、スマートフォン関連部品については、フィーチャーフォン(従来の携帯電話)からの置き換えに加えて、3G・LTEへのマルチバンド対応など高機能化によ

スマートフォン市場については、先進国におけるさらなる普及の進展や、新興国市場での低価格製品の拡大などにより、今後 2～3 年程度は高成長が続くとみられています。ただし、日系電子部品メーカーは特定のスマートフォンメーカーに依存している先も少なくないことに加え、スマートフォンにおいても中国や台湾メーカーが低価格製品を中心に徐々にシェアを伸ばしてきているため、今後は販売先の拡大が勝ち残りのための重要な鍵になっていくとみられます。

しかしながら、①スマートフォンの上位メーカーの中には電子部品の内製化を進める方針を採っている先もあるほか、②新興国を主体に今後の市場拡大のけん引役とされる低価格帯のスマートフォンについては、台湾や中国、韓国の電子部品メーカーの技術的なキャッチアップもあって競合が厳しいことなどから、新たな販路獲得は容易ではないとみられます。

図表1 電子部品出荷額推移(前年同期比)



(資料)JEITAを基に弊社作成

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的な手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。



SMBC SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION

したがって、日系電子部品メーカーについては、他社製品では代替が利かないような特異な技術力を有する一部のメーカーを除いて、スマートフォンに代わる新たな成長ドライバーを創出していくことも重要になってくるとみられます。

新たな成長ドライバーの創出

そこで、新たな成長ドライバーとして、電装化の進展等から市場拡大が見込まれる車載関連や、高齢化を背景に安定的な市場成長が期待される医療関連への取り組みを強化する動きが、ここ数年注目されるようになってきました。

ただし、車載・医療関連の電子部品需要は中長期的には安定した拡大が見込まれるものの、①現時点ではノートパソコンやスマートフォン向けに比べて市場規模が小さいことや、②製品の特性上、過去の取引実績や品質・信頼性が重要となるため既存取引が重視される傾向が強く、新規参入は容易ではないこと、といった点が事業拡大のネックとなっています。

そこで、日系電子部品メーカーのなかには、すでに取引実績のあるメーカーを傘下に収めることで一気に業容を拡大させることを狙って、車載分野や医療分野を対象としたM&Aを積極的に進め、今後の成長への布石を着実に打っている先もみられるようになってきました。

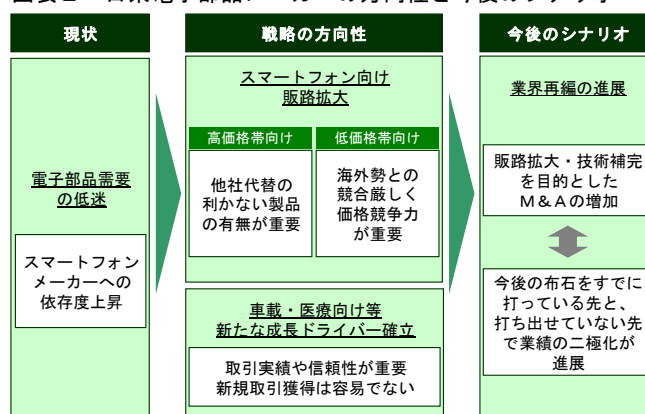
今後の方向性

これまでみてきたように、薄型テレビ

やノートパソコンをはじめとした最終製品需要の低迷に加え、台湾や中国、韓国等アジアメーカーの技術的なキャッチアップもあって、日系電子部品メーカーを取り巻く収益環境は今後も厳しい状況が続くとみられています。こうしたなか、これまでスマートフォン向けの販売を伸ばすことで足元でも一定の業績を維持してきたメーカーについても、今後は特定のスマートフォンメーカーの販売が減少したり、メーカー側が調達方針を変更した場合でも業績が左右されにくい体制を構築していくことが重要になっていくとみられます。

そこで日系電子部品メーカーの戦略の方向性としては、①スマートフォンメーカー向けのさらなる販路の開拓に加え、②車載・医療向けなど新たな成長ドライバーの創出などがポイントとなり、今後は技術力の補完や販売・用途拡充を企図したM&Aが一段と増加するとみられます。こうした施策の巧拙により、日系電子部品メーカーの業績面での二極化がますます進むことも想定されるだけに、各社の動向が注目されます。（糸井）

図表2 日系電子部品メーカーの方向性と今後のシナリオ



（資料）弊行作成

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的な手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。